

市民 プレス



SHIMIN PRESS

1月5日 第51号

発行人 特定非営利活動法人
「市民フォーラム」

編集人 原 昭二

制作・印刷 デジタル工房

FAX 048 (476) 9111

〒353-0004 埼玉県志木市本町 5-19-15

市民の目線で市民が発信する地域情報紙

WEB SHIMIN

<http://shimin.camelianet.com>

CONTENTS

-PAGE 1 オープンした史跡公園
「河越館跡」、道灌の川越城と
「江戸図屏風」、将軍家光の
小姓だった信綱による城の拡張

-PAGE 2 志木町立小学校の建築を
めぐって：星野照二の活躍と挫折

-PAGE 3 借別 長倉甫政さん

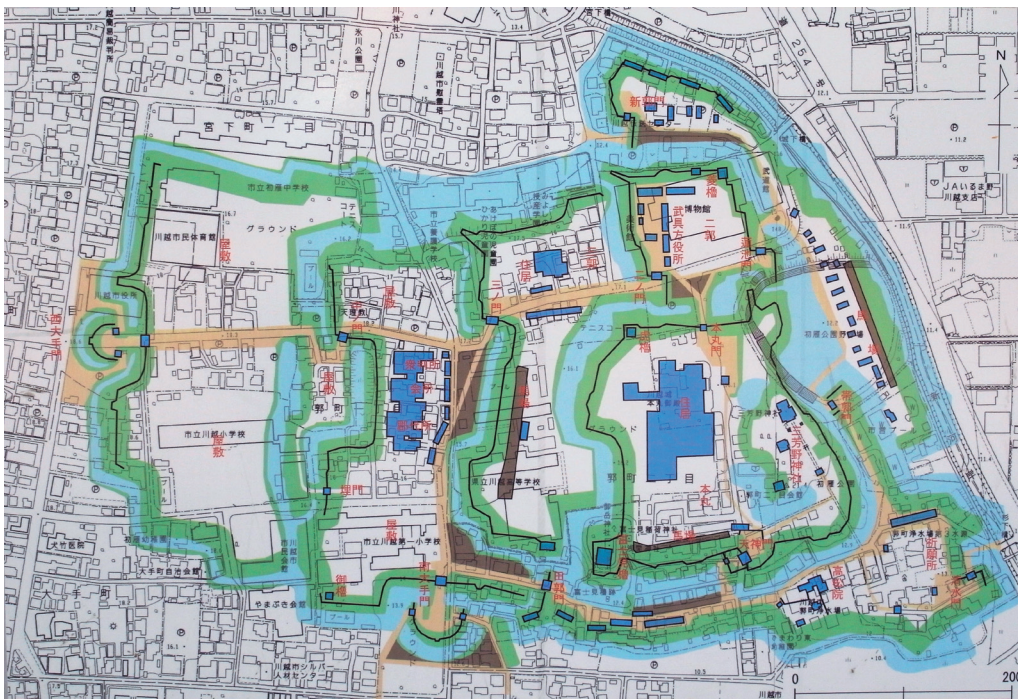
-PAGE 4 Global Mind
イスラエル紀行（その3）
深瀬 克

武蔵国川越城図

寛永十六年（1639）、川越藩主となった松平信綱は、城の拡張に着手した。これにより外曲輪（曲輪はくるわと読む。郭とも書く）、田曲輪、新曲輪が広がり、西大手と南大手が完成する。本図が描かれた幕末まで、縄張りには大きな変更はなかった。

下図には現在の川越市街が重ねられているので、当時の「三ノ門」〔中央〕から「富士見櫓跡」〔中央下〕にかけて「県立川越高校」が、また図右方向上の「二郭」「二ノ門」あたりに「市立博物館」、左方向の「屋敷」跡には「市立川越第一小」、さらにその左には「市立川越小学校」が所在することが分かる。

この城図は川越市立中央図書館蔵



太田道灌の 川越城



江戸時代初期の市街と近郊の景観を画題として、そのなかに三代将軍徳川家光の事蹟を描き込んだ屏風絵で、徳川幕府が拡張に着手する前、太田道灌が長禄元年に築いた城の姿が分かる。

室町時代後期、武蔵国は扇谷上杉氏と古河公方（足利氏）との係争地で、足利氏の勢力に対抗する拠点として、上杉持朝は家老の太田道真、資長（後に還俗して道灌）父子に川越城と江戸城との二城の築城を命じた。持朝が初代河越城主となったが、家老の道灌は江戸城主となった。但しこの絵は、既述のように将軍家光のころなので、左下に御鞭打といわれる皮竹刀を使った騎馬集団による軍事演習の様子が書き加えられている。

徳川家光の小姓だった

松平信綱の登場

信綱は幕府の老中となり、かつ川越藩主として道灌の川越城を拡張し、本丸御殿（重要文化財）などを建築した。



平成23年3月に修復工事が終了予定の川越城本丸御殿

オープンした「河越館跡史跡公園」

川越市上戸（うわど）に所在、川越市の北西部、人間川西岸に位置し、約二町（218m）四方の規模をもっている。



左奥が史跡公園、右奥は常楽寺

発掘調査は、昭和四十六年から川越市教育委員会によって続けられていたが、平安時代末期から戦国時代にかけての堀や井戸、住居などの遺構が、つぎつぎと発見され、『新編武蔵風土記稿』に上戸村常楽寺の挿絵として描かれていた河越館跡地がようやく証明されたのである。

常楽寺山門



河越氏は秩父氏の嫡流で、平安時代末期から南北朝時代にかけて武蔵国で勢力を張り、河越館を拠点として国司の代理職である「武蔵国留守所（すけどころ）総検校職（けんぎょうしき）」を継承し、武蔵七党などの中小武士団や国人を取りまとめていた。

鎌倉開府以後は源頼朝に従い、河越重頼の女は源義経の妻に選ばれた。しかし、河越氏は応安元年（1368）に滅ぼされ、後北条氏の河越城代、大道寺駿河守の砦となつて、川越城の出城の役割を果たしたこともある。

志木市 町立小学校の建築をめぐる

星野照二の活躍と挫折

冒頭で、明治四十年十二月の『国民新聞』(徳島蘇峰が発刊した日刊紙)の記事を一瞥することにした。

題して『志木町の紛擾』

昔から紛紜好きの町、埼玉県志木町は旧新座郡と称へし荒川向ふの飛地にて浦和を距る二里強、県下第二の富豪西武の根拠地にして戸数千余あり繁華の土地なるが同地に永年町政に干与し今こそ見る影もなければ一時飛ぶ鳥も落す勢なりし助役星野照二と言へる古兵者あり十二円の有給助役にて此男却々の潜勢力ある上に頗る遣り手なれば反対者も少なからず己れ一度町長となりて同町小学校の建築を開始するや其費用の支出方法不明なりとて不声望の中に退職し其後再び有給助役となりし者にて兎角町会議員と意見合はざりしが過般町会議員全部は星野助役に欠点ありとて其非行を鳴らし総辞職をなし陳情書を作り一同を始め同町の重なるもの九十余名連判にて此趣を早川同郡長に提出したれば郡長は重立たる者を郡役所に招き和解調停の尽力をなしたるも応ずるものなく星野助役も亦た職務上何等の欠点なきを主張し一歩も譲らず然るに此事を聞知せし政友会派の前県議員斎藤祐美氏は同町と深き関係を有する事として中に入り星野助役に退職を勧め同人に向かつて一端退職せ

て復帰、志木小学校校舎の建設を巡って獅子奮迅の行動に徹した。当時を偲ぶよすがとして、「志木市史」に記された公文書の中を探索してみよう。彼の活躍は、果たして正義の行動として評価すべきものであったか？

旧引又町と旧館村が敷地問題で紛糾し、彼はピストルを携帯して身を守る必要があったともいわれている。

一。まず小学校学級編成認可を県に申請。

明治三十四年三月 志木尋常小学校学級編成認可稟申書

第二〇八号 稟申書

本町立志木尋常小学校生徒員数増加致候ニ付従来ノ学級ヲ変更シ別表ノ通編制致度候間学級編制ニ関スル規則第十条ニヨリ特ニ御認許相成度校舎絵図及生徒ノ配置書相添へ此段及稟申候也

明治三十四年三月廿四日

志木町長 星野照二

埼玉県知事 山田春三殿

編制表

種別

学級 学年別 男生徒数 女生徒数 生徒計数

一学級 一学年 三十八人 三十二人 七十人
二学級 二学年 二十六人 十八人 四十四人
三学級 三学年 二十四人 十七人 四十一人
四学級 四学年 二十六人 二十人 四十六人
五学級 補習科 四十人 二十二人

古兵と名指しにされた星野照二は・・・はじめは町長として活動したが、辞任後は助役とし

人六十二人
計 百五十四人 百〇八人 二百六十二人
(埼玉県行政文書明三三七)

二。次に中野のお寺を借用していた「寺子屋」からの脱皮のため、小学校校舎の建設を県に申請。

明治三十四年七月 志木尋常小学校位置変更稟申書

学甲第三三四号 小学校位置変更稟申書

部内志木町立志木尋常小学校位置ノ義ハ明治二十五年中同町字中野ニ指定シ寺院ヲ借受ケ校舎ニ充用シ来リ候処設備不完全ニシテ教育ノ進歩ヲ妨グルノ恐有之ヲ以テ昨年五月校舎新築期限及費用支弁ノ方法等ニ就キテ県令第六十一号ノ許可ヲ受ケ爾来之レカ計画ニ尽事シタル結果今般愈々校舎建築ノ議相連ヒ候ニ付テハ校地ニ適當ナル場所相連シ候処別紙相調書ノ場所ハ設備規則ニ照ラシ最も相當ノ位置ト認メ同町ノ意見ヲ聞キテ位置ヲ変更シ校舎ノ新築ヲ遂ケシメ度候右御認可相成度別紙関係書類相添へ此段及稟申候也

明治三十四年七月十八日

北足立郡長 早川光蔵印

埼玉県知事 山田春三殿

一 志木尋常小学校校位置
志木町字上町二千五百貳拾貳番畑五畝拾五歩、同二千五百參拾九番畑壹反五畝貳拾壹歩、同二千五百四拾八番畑八畝參歩、同二千五百四拾九番畑壹反參畝參歩

一校地ニ関スル事項取調
一校地図面別紙ヲ付ス
二校地ノ地質 高燥

三 飲料水 良
四 近傍ノ地勢 東北南三面平坦 西面漸傾斜

(イ) 状況 閑静
(ロ) 通学 便利

遠距離十八町
五戸数 四百七十五戸
六人口 二千八百七十四人
男 二千四百十八人
女 二千四百五十六人
七 学齡児童数 四百二十一人
男 百十八人 女 百五人
明治三十四年六月三十日現在
内 卒業生 百三十五人 男
七十三人 女 六十二人

現在就学者 二百七十七人 男
百四十二人 女 百三十五人
不就学者 九人 男 一人 女 八人
八体操場 校地ノ内ヲ充ツ
右ノ通二候

明治三十四年七月九日

北足立郡志木町長 星野照二

第三六〇号 北足立郡志木町尋常高等小学校増築稟申書
一校舎 木造平家建亜鉛葺 壹棟 此坪数 教室三拾五坪 但別紙図面ノ通
外廊下 拾坪
昇降口 五坪 二合五勺
一 増築費用総額金 千二百八拾貳円六錢五厘

各字ヨリノ最遠距離表
字名 町数 字名 町数
上町 一町 城山 五町
市場 三町 大塚 八町
中野 三町 久保 十八町
中道 四町

三。高等科の併置を申請。

尋常小学校教科へ高等小学校教科併置に付認可申請

北足立郡志木町立志木尋常小学校へ高等小学校教科ヲ併置シ其修業年限ハ四箇年ト致度町会ノ決議ニ依リ別紙取

北足立郡志木町長 星野照二

調書及経費予算書等相添此段及稟申候也

埼玉県知事 木下周殿

明治三十五年四月十一日

四。志木小学校を増築すべく申請。

一起工期日 明治四十一年二月廿八日
一 落成期日 同年三月三十一日
右ハ本町立志木尋常高等小学校増築仕候間御許可被成下度此段稟申候也
明治四十二年二月二十二日
北足立郡志木町長代理
助役 星野照二

埼玉県知事 島田剛太郎殿

学齡児童其他取調表

学齡児童 總数 四九五男 二六六女 二二九 尋常小学校卒業生 一九四男 一〇六女 八八現在就学者 二九二男 一五七女 三五 不就学者 九男 三女 六 右ノ通二候也

五。その後星野氏は・・・

自身の居宅を引払つて、志木町の政治から引退し、自宅の裏手の隠居所に移ったようだ。照二さんが亡くなったあと、娘のモトさんは、そこを処分して、養子とともに志木を離れた。

星野家は「引又」(志木の古名)の草分けの一つ、名家の一つだった。照二さんは政治に挫折した正義漢だったのかもしれない。



志木小学校新校舎開校祝賀會
明治 36 年(1903)

明治末期の志木小学校高等科生徒。
「志木学校」という表示がある(志木市「ふるさと写真集」より)。



この人

長倉 甫政さん

長倉さんが、「新年おめでとうございませう」で始まる手紙を添えて、「俺の来た道、つれづれ帳」(発行所・本の森)を届けて下さったのは、昨年、年の瀬が迫る頃だった。筆者より年上の方だが、共同のイベントに携わり、長期間にわたって交流していたので、共感するところが少なくなかったが、はじめて知ったことが余にも多く、驚きと衝撃に打たれ、コンテンツの生まなましきから、興味は尽きず一気に読了してしまった。

甫政さん(ご)二家は、名作「武蔵野物語」など、数々の著作で知られる「永倉萬治」さん(彩の国偉人百人に選ばれる)、つづいて作家の柚木淑乃さんを世に送り出した名門、しかしお二人とも夭折され、お父さんの長倉甫政さん、お母さんの婦子さんの無念の想いを計り知ることはできない。甫政さんは、どうしても書いておきたいとの一念で自らの筆を取られた「俺の来た道」は、誰も辿ることのできない生涯の歩みを、率直に語って余すところがない。

本書は「第一の人生へー少年時代、川商時代」、「第二の人生へー商いの道へ」、「第三の道へーかけがえのない家族と思い出」の四部から構成されている。

「第二の人生 お国の為に」と「才迄」で長倉さんは、昭和一八年から二〇年迄の軍隊生活、いかに死ぬかの三年間だけに月日は三年と短い、一生の内最高にして

強烈な思い出である、燃え尽きたすべてに感じられるのだと語っている。

ご経歴の一端を垣間みてみよう。大正三年二月生を受く、昭和五年志木小へ、ついで昭和二〇年川越商業へ。以下断片的に本文から引用させていただく。

・・・・東上線も当時は二時間に二本位。乗りおくれれば遅刻だ。乗客も中学生許り。車掌さんとも顔みしり。どの車掌さんも七、八年で駅の助役さんに出世して行く。当時の町の顔役は、お巡りさんと駅長さんと水宮のひげの神主さんだった。

藤沢江ノ島にて 見習い士官 死から解放された一時だった 昭和 19 年 12 月



忘れられない二・二六事件の日、雪の道をザクザクと学校へ。帰途、駅できいた香椎軍司令官の「今からでもおそくない」兵に告ぐ、のラジオ放送は、真相は判らなかつたが、国賊云々で大事件だあとに語った・・・。

商業学校では軍事教練が優先だ。何故なら一人でも多く将校になれる学校が優秀校とされたからだ。四年になると実弾射撃が出来る。年一回の毛呂の射撃訓練が辛い年にも楽しい日だった。

年一回の埼玉県中の中学合同大演習は机上の作戦を実践にしての訓練。野営やら村々の未知の家へ泊めてもらつての訓練は、未だ少年の心を持ちつつ近づきつつある

祝出征の歌に送られて。

北支派遣軍二五二八部隊(三五師団野砲隊)要員として千葉佐倉の連隊に假入隊した。練兵場で最後の面会だった。今生の別れになると思ったのか、めつたな事では俺一人に任せる父が、一緒に来てくれた。昔言えば水盆の気持ちだった。

北支開封と知らされたのは一週間後、一切の訓練もなく家族との再面会もなく、雪のちらつく佐倉の兵舎を出発、軍隊生活の第一歩をふみ出した。

二月二〇日軍用列車は機密保持とやらで窓は一切閉めた儘固くとざされた儘。岡山だかで白いカップを着の婦人会の人達から差し入れの茶菓を貰つたわけ。博多港から直ちに軍用船にのりかえ、釜山港迄直行便だ。船出の旗もない、見送りはない。夜、静かに船出だ。新兵は最下段の船倉でゴロ寝、身動きする事も出来ない。何時出航したのかも知らない。幸い大きな船の為か酔いしはしなかつた。

釜山から開封(中国)へ、道は六八〇里、俺の歩いた中国大陸は、開封↓克州↓保定↓南口鎮↓北京だった。長倉さんの語りはつづく。

開封城でアカシヤの微風懐かし、克州幹候特訓隊、保定、陸軍予備士官学校で、危うし流弾一発。

往路の初年兵から一挙に将校に昇進して内地に帰還、こんどはなんと、本土決戦のために陣地構築の命令を受ける。江ノ島大磯海岸に砲の陣地を造つたが、途中で、吉見百穴のあたりに移動し、穴を掘って貯蔵庫をつくる。

性を見初めて求婚、青年将校は、

本土決戦を控えて結婚、間もなく終戦となつて、無我夢中、将校行李一ヶを担つて、ふるさと志木駅頭に立つたのであった。

第二の人生へ結婚から廃業迄、彼は商いの道へと転身、衣料品の「長倉商店」を開業、しかしものがない無終戦後のこととて、正規の「配給」の業務と、「ヤミ市」での仕入れが交錯する中、商売は順風満歩、志木有数の人気店となつていった。

当時の旧志木町では、上町、市場(現志木市本町二、三丁目通り)の商いが、九割りを占め、市の日にはスリが出たほどであった。彼は敢然として、駅前東町商店街を結成、なんと駅前通りにネオン灯を林立させて、市内の商工業者を驚かせた。

ある名だたる旧家の奥さんが、万引常習者だった事もあった。他店の人から、ながくらの反物が何十反も万引してあつたときかされ



昭和35年頃 家族旅行の思い出) 下の写真には、「恭一撮影」と注記されている。



ただし万引きと泥棒、また不動産のトラブル、税務署の狙い打ちの調査など、また赤痢を患い、つづく胃の手術など苦難はつづき、第三の道、商いの道三年は終わった。

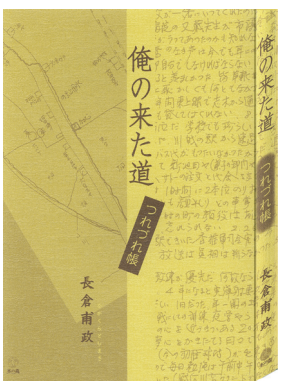
当時の世相を偲ぶ二環として、「万引」について、彼の語りを引用してみよう。万引の神様・・・客にも色々な人がいるが、いろいろ判ってくる様になった。手癖の悪い娘がいて、何も買わずに帰つた后、必ず何かがなくなつた。

我が家も当時流行の?泥棒対策として入口から雨戸から全部を接続した電気防犯ベルをつけた。一寸でもすき間が出来ればベルがなる。お蔭様で初めの内は安心だったが、日がたつにつれ風の強い夜は自然にベルがなり、その度にビクビクの連続。これも三、四年たった頃、故障の為いつのまにか忘れてしまったのも喉元すざれば熱さを忘れるのたとえ通りで・・・。

本書は最後に、かけがえのない家族の思い出を綴り、「生とは」を自らに問いかけ、般若心経との出会いを記している。・・・そして父逝き、母逝き、愛する弟俊吉の夭折を偲び、さらに作家としての栄光に包まれた子息、恭一(ペンネーム永倉萬治)、そして文筆家としての文壇を湧かせ、人気作家としての道を直進していた息女、ペンネーム淑乃との愛情を切々と語りつづける。

惜別 この世との別離をひしひしと感じていたのであろうか、長倉 甫政さんは、この書を私に下さつた直後病いに倒れ、間もなく他界された。痛恨の極みである。ご家族のお話しによると、最期まで、頭脳はきわめて明晰であつたという。甫政さんは、類い稀な、しかも傑出した人生を完結されたのである。

編集子記す。



イスラエル紀行

深瀬 克

＝その三＝

1. キリスト教と「聖墳墓教会」

イエスの教えは当初、イエスの出身地の名前を取って「ユダヤ教ナザレ派」と呼ばれた。当時のユダヤ教は、戒律をしっかりと守る者が救われるとするパリサイ派や熱心党などの律法学者が指導権を持っていた。しかし、イエスは日常生活の中で戒律などとても守れない一般大衆・娼婦・乞食でも神は愛を差し伸べてくれると説き、従来のユダヤ教に対するプロテストメントとなった。

これと同じようなケースは沢山ある。紀元200年頃インドの龍樹は、修行を通して悟りの境地に至ることを目指す「上座部仏教(小乗仏教)」では特定の者だけが救われなため、菩薩の力を借りて利他行を続ければ凡夫でも来世で成仏できるとする「大乘仏教」を説いた。一方日本では、鎌倉時代初期(13世紀初頭)親鸞は「一般大衆こそ救われなくてはならない」と考え、悪人でも極楽往生できると説いた(浄土真宗)。イエスだけでなく、龍樹も親鸞も当時の大衆の目からは「救世主、キリスト」に見えたに違いない。

話を元に戻そう。新約聖書によると、戒律にこだわる伝統的ユダヤ教徒たちは、イエスが『自分は神の子だ』と言って「神教であるヤハウェを冒瀆している」と理由付け、何としても磔刑に処したいと考えた。ローマ帝国領ユダヤ州総督ピラトに「イエスは自分を『ダビデの王だ』と言ってローマ帝国に謀反の企てを持っている」と讒言し磔刑にするように要求、ピラトはしぶしぶこれを認めたと書かれている。このことが中世以降キリスト教世界においてユダヤ人が迫害される最大の要因になった。即ち、キリスト教徒が「ユダヤ人であるイエスを崇(あが)めるためにユダヤ人を迫害する」という、何とも奇妙な現象が定着してしまったのである。

ヨルダン川の洗礼場



イエスが死刑の判決を受けた場所から磔(はりつけ)にされたゴルゴタの丘までの道は、現在「ヴィア・ドロローザ、悲しみの道」と呼ばれ14のステーションが設定されている。例えば「鞭を打たれ十字架を背負わされた場所(第2ステーション)」、「イエスが最初につまずいた場所(第3ステーション)」、「シモンがイエスの代わりに十字架を背負った場所(第5ステーション)」、「イエスが再びつまずいた場所(第7ステーション)」などである。ゴルゴタの丘の上には「聖墳墓教会」が建っており、「受胎告知教会」(ナザレ)、「生誕教会」(ベツレヘム)と並んで3大教会として主要巡礼地になっている。

さて、この他にも巡礼地は沢山あるが、印象的だったのはヨルダン河畔の洗礼場だった。ヨルダン川はイエスが洗礼者ヨハネから洗礼を受けた所であり、世

界中のクリスチャンは自分もヨルダン川の水に浸かりたいと思うらしい。まるで日本の修験者が白装束で滝に打たれるが如く、さらに

はガンジス川で多くのヒンズー教徒が沐浴をするが如く、多くのキリスト教巡礼者がヨルダン川の水に浸かっている光景には、思わず息を呑む思いであつた。

整理しておこう。イスラム教はユダヤ教・キリスト教の影響を受けて成立したものである。ムハンマドは天使ガブリエル(注記1)を通してアッラーの啓示を聞き、預言者としての自覚を持つて啓示の内容を民衆に説き始めた。しかし多神教を信じる民衆から反発を受け、622年メッカからメディナに逃れ、この年がイスラム暦元年となった。この地で教義を確立すると同時に、次第に勢力を強めたムハンマドはメッカ軍を打ち破り、630年メッカに無血入城を果たし、カーバ神殿を多神教からアッラーの神殿に改めた。632年ムハンマドは天使ガブリエルに連れられてメッカからエルサレムに旅をし、神殿の岩から天馬に乗って昇天したと言われている。

3 宗教の共通点・類似点は一神教と言うだけでなくいろいろある。先述したように、岩のドームの場所はユダヤ教の神殿があつた所であり、ユダヤ教とイスラム教の両方に縁の深い場所である。さらに、アブラハムはユダヤ人とアラブ人共通の祖先であるので、争いの絶えない3宗教は全てアブラハムの子孫が始めた宗教なのである。

(注記1) 天使ガブリエルは、告知の天使」とも言われ、キリスト教では聖母マリアに「受胎告知」をした。

3. 死海と大地溝帯

死海は塩分が通常の海水の10倍以上の35%もあるためほとんどの生物は「塩漬け」の状態になつてしまひ生息できない。このため「死海」と呼ばれるわけだが、高濃度の塩分で海水の比重が大きくなり浮力も大きくなるので、我々の身体は軽々と浮かび上が

て溺れ死ぬことは無い。ただし長時間入っていると「ナメクジに塩」の如く水分を吸い取られ、指先などがシワシワになつてくるので要注意のことであつた。

死海のもう一つの特記事項は、湖面が何と海抜マイナス412mと言う地球上で最も低い場所にあることである。アフリカ大陸東部を南北に縦断し、紅海・アカバ湾・死海からヨルダン

渓谷に続く「大地溝帯」が約1億年前から形成され、約100万年前に海から切り離されて「死海」が出来たらしい。以来死海の水は蒸発を続け、周辺からの塩分流入も加わり、このような高濃度に至つたことであつた。

現在、ガリラヤ湖から死海に流れ込むヨルダン川の水は灌漑用水に利用されるため死海への流入水量が減少しており、死海の水位は毎年約1mずつ低くなつていく。

このため、死海はすでに北部と南部に分かれており、水路で繋がっている状況になつていく。

ガリラヤ湖の水源はゴラン高原にある。シリアとイスラエルはゴラン高原の領有権を争っているため、日本は国連平和維持活動の一環として、1996

年以来現在まで自衛隊を監視軍として派遣している。自衛隊のP KO派遣としては最長期間のものだそう。今後、水資源争奪の面からもシリア・イスラエルの緊張度が増す危険性があると現地ガイドが話していた。(2010/4月14、21のイスラエル紀行から)。

水銀の上に乗ったような感じの「死海」



ガリラヤ湖の遊覧船から見たゴラン高原



「山手線は廻る」

編集は「NPO市民フォーラム」

新橋から品川・横浜へ、日本の鉄道建設は明治五年に始まった。半世紀を経て完成した環状の「山手線」は、首都東京の大動脈となる。本書は山手線各駅近傍の地誌を語り、歴史的な変遷を偲びつつ、気ままに読み下せるように編集された物語り。

240ページ 定価 1260円(税込)

全国書店で発売中 ネットでも購入できます。

発行(株) ヒューマン・クリエイティブ

発売・編集 電話:042-620-2616



お知らせ

ニュータイムス社のご好意により、同社の情報誌「ニュータイムス」をご購読されている読者に、本紙「市民プレス」を同梱・配布して戴いております。

お申込みは

「ニュータイムス社」へ。

TEL. 048-486-6138

FAX. 048-471-3240

E-mail, newtimes-net@nifty.com

本紙「市民プレス」は年四回(二、四、七、十月、各月五日)発行。

紅梅と白梅の競演



特定非営利活動法人

NPO「市民フォーラム」

この法人は地域住民と行政に対して取材活動を行ない、報道によって市民の公共参加を推進します。また市民間のコミュニケーションの増進に努めます。

地域情報紙「市民プレス」はNPO市民フォーラムが編集・発行し、無料で配布しています。読者の「オピニオン」(意見・感想)をお寄せ下さい。

TEL090(3048)5502

編集部 原宛にどうぞ



遠い国、近い国のことをもっと知りたい...人々の暮らしも...

黄金の屋根の「岩のドーム」

